

テーマ：貿易統計（2014年2月）

発表日：2014年3月19日（水）

～引き続き貿易赤字は高水準～

 第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 高橋 大輝
 TEL：03-5221-4524

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量							
		原数値		季調値		輸出金額		アメリカ		EU		アジア		アメリカ		EU		アジア	
						前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
13	1月	▲16331	▲6281	6.3	7.1	▲1.5	▲1.2	▲14.7	1.3	▲0.6	▲1.6	5.7	▲3.5						
	2月	▲7733	▲10945	▲2.9	11.8	▲12.8	▲11.2	▲22.8	▲12.4	0.3	▲8.1	3.7	2.1						
	3月	▲3569	▲8937	1.1	5.4	▲7.1	▲9.6	▲12.5	▲6.7	▲4.5	▲10.6	1.7	▲7.5						
	4月	▲8774	▲7252	3.8	9.4	▲3.0	0.2	▲11.8	▲2.2	2.5	▲8.6	7.3	3.2						
	5月	▲9913	▲8078	10.1	10.0	▲1.2	▲3.3	▲16.4	2.1	▲2.2	▲6.8	▲0.6	▲5.5						
	6月	▲1805	▲6781	7.4	11.7	▲5.1	▲6.4	▲9.4	▲4.0	▲5.0	▲2.9	0.2	▲7.5						
	7月	▲10325	▲9397	12.2	19.7	1.8	0.4	0.2	▲1.7	2.4	2.1	4.2	1.2						
	8月	▲9714	▲8758	14.6	16.2	1.9	0.9	▲1.2	0.4	▲1.9	▲2.2	▲0.6	▲2.5						
	9月	▲9432	▲11388	11.4	16.7	▲1.8	▲1.2	▲2.2	▲4.0	▲2.1	▲5.8	14.0	1.4						
	10月	▲11004	▲11344	18.6	26.3	4.4	5.3	8.0	2.0	6.4	▲2.0	6.0	3.3						
	11月	▲13011	▲13448	18.4	21.2	6.2	2.9	0.4	5.9	3.4	21.2	▲7.0	1.8						
	12月	▲13072	▲11878	15.3	24.8	2.5	▲4.6	5.4	2.2	4.7	1.1	16.9	1.8						
14	1月	▲27917	▲17630	9.5	25.1	▲0.2	6.3	5.5	▲2.0	8.0	15.3	9.2	10.9						
	2月	▲8003	▲11332	9.8	9.0	5.4	6.3	8.1	5.0	8.0	15.3	9.2	▲2.9						

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易赤字は依然高水準

2014年2月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は8,003億円の赤字（コンセンサス：▲6,009億円、レンジ：▲9,960～▲2,351億円）となった。予想対比で、輸出が下振れ、輸入は上振れしたことで、貿易赤字額はコンセンサスよりも大きなものとなった。

季節調整値をみると、貿易収支は1兆1,332億円の赤字と前月（1兆7,630億円の赤字）から大きく改善したものの、依然1兆円を超える赤字が継続している。1月、2月は春節による影響があるため基調が判断しづらいが、均してみれば消費税率引き上げ前の駆け込み需要による輸入の増加などを背景に貿易赤字は増加基調にある。

○輸出は均してみれば緩やかな増加に留まる

物価変動の影響を除いた2014年2月の実質輸出（実質化、季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比+4.3%（1月：▲2.4%）と増加した。もっとも、2月の実質輸出は、春節の影響によって高めの数値となっている面¹もあり、割り引いてみる必要がある。1、2月の平均をみると、10-12月期平均を+0.4%上回る推移となっている。輸出の増加ペースは、依然緩やかなものに留まっている。

実質輸出を地域別にみると、アジア向けが前月比+5.5%と高い伸びとなり、輸出を牽引した。もっとも、前述した春節の影響によって押し上げられている面もあり、緩やかな増加基調が続いているものと判断される。米国向けは前月比▲4.1%と減少した。米国向けは、寒波などの悪天候によって押し下げられている面も

¹ 春節時期（春節から1週間程度）には中国に物が届かないように、日本側で輸出を調整している。日本側の輸出が調整されるのは春節2週間前から春節1週間前ごろとなる。春節が1月中～2月上旬にある場合は、輸出抑制の影響が1月に集中するものの、それ以降の場合には輸出抑制の影響が1月と2月に分散する。今年の春節は1月31日（2013年は2月10日）であり、1月が下振れやすく2月が上振れやすい。

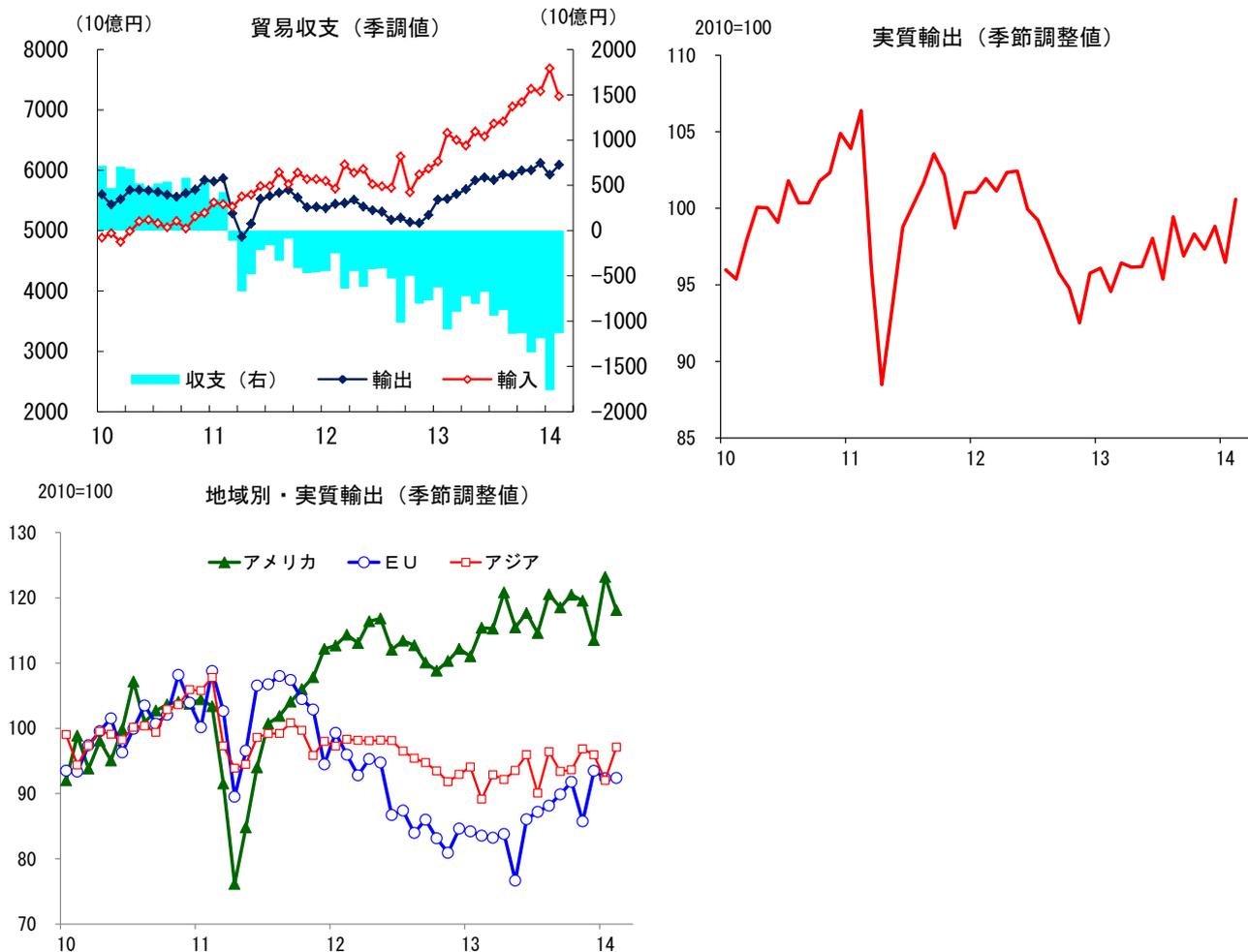
あるとみられ、輸送用機械を中心に機械類が減少した。米国向け輸出は、均してみると横ばい圏内での推移に留まっている。EU向けは前月から横ばいとなった。これまで増加に寄与してきた機械類の増加に一服感がみられ、EU向け輸出の減速に繋がっている。

○貿易赤字は14年3月までは高水準。4月以降は縮小を見込む

このように2月の輸出は大幅増加となったが、前月の反動の面も大きく輸出が加速したとまではみていない。先行きの輸出は、①海外経済の緩やかな回復や②過去の円安による数量効果が輸出を後押しすることで持ち直していくものとみている。米国経済は、14年1-3月期は悪天候による影響などが懸念されるものの、雇用の改善などを背景に安定した成長軌道を辿る公算が大きく、欧州経済も緩やかながらも改善が続いていくものと見込まれる。

貿易赤字については、14年3月までは高水準での推移が予想される。輸入が、消費税率引き上げ前の駆け込み需要などを背景に高水準での推移が続くと見込まれることがその理由だ。増税後となる14年4月以降は、内需の低迷による輸入の減少を見込んでおり、貿易赤字は縮小すると予想している。

なお、1-2月の貿易赤字が高水準であったことから、1-3月期の経常収支（季節調整値）は赤字になる可能性が高いとみている。



(※) 出所はすべて、財務省「貿易統計」。実質輸出の実質化、および季節調整は第一生命経済研究所。